

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800039	事業の開始年月日	平成19年2月1日
		指定年月日	平成19年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 折本福祉サービス		
事業所名	グループホーム蘭寿おりもと		
所在地	(〒 224-0043) 神奈川県横浜市都筑区折本町1374-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	平成31年1月1日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは緑に囲まれ、田畑が多く、散歩など環境面には恵まれております。日常生活の中で利用者様と職員とが仲良く、一緒にお散歩する事から1日が始まり、天気が悪い日などはユニット内でトランプ、ぬり絵、歌レクなど、たくさんの遊びを取り入れ、楽しんで過せる環境を提供できるように取り組んでおります。1年を通じて季節に応じた様々な行事を行い、お花見、やきいも大会、歌謡ショー、踊りなど時にはドライブを兼ねて回転寿司など外食にも出かけ、お好きな物を食べられている様子は、本当にニコニコと楽しそうです。

地域での活動も活発で、獅子舞やお神輿、盆踊りなどにも積極的に参加し地域の皆様との活動も行なっております。利用者様と職員とが一体となり喜びも悲しみも共有し、傾聴させて頂き、利用者様にとって安心して、穏やかに過ごしていただけますように日々努力してまいりたいと思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	H31年2月20日	評価機関 評価決定日	平成31年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>

- ・利用者との信頼関係の構築
利用者のかたのしたことを笑顔でほめ、ほめ言葉でやる気を引き出している。また、職員が利用者にかたに優しい笑顔で接することで、安心感を持ってもらい信頼関係を築いている。
- ・利用者との密なかかわり
利用者が一人居室で過ごす時間が長くない、できるだけリビングで過ごしていただき、他者とのふれあいや会話の機会が多くなるよう配慮している。利用者にかた接する機会が多いほど、職員は、利用者のかたの思いや意向を知ることができるため。利用者にかたのかかわりを最優先にかたにケアに努めている。
- ・「利用者本位」のケアの実践
利用者のかたの日中の過ごし方は自由にし、自己決定を尊重している。大半の利用者は、フロアで朝の体操に参加している。職員は、利用者のかたの出来ることを把握し、それぞれのペースで持っている力を活かすようにしている。食事の盛付や掃除、洗濯ものたたみなども出来ることはご自身でして貰っている。

<事業所が工夫している点>

- ・ダブルチェックによる誤薬の防止
写真入りの利用者のかたの別薬ケースに、薬の錠数を記載し、与薬前に職員2人で名前と錠数を確認し、与薬時にも2人で確認している。飲み込みまで再度2人で確認している。その結果服薬事故は起きていない。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム蘭寿おりもと
ユニット名	いぶき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の理念を常に考え、職員同士が理解・共有し、利用者様にとって安心・安全な生活が送れる様に努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の「利用者本位」を、事務所やリビングに掲示して、全職員の思いを込めた13項目の「蘭寿クレド」を毎朝唱和している。 ・利用者との関わりを最優先にしてケアにあたっている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭や獅子舞、お神輿等の行事や、防災訓練に参加している。また定期的に地域のボランティアの方をお招きし演奏会(らんらんコンサート・ハーモニカ・アンクルンコンサート)を行い、交流を図っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入し、地域の盆踊りに利用者と参加している。獅子舞やお神輿が事業所に立ち寄っている。散歩の際、野菜や切り花などを用意して、待っていてくれる住民もいる。 ・地域のボランティアの演奏会を2〜3か月ごとに行っている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事(獅子舞・夏祭・清掃)に積極的に参加をしたり、こども110番に登録をしている。また、運営推進会議等にて、利用者様の状況や支援等を伝えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、ご家族・近隣住民・区役所職員・地域ケアプラ職員に活動報告を行い、意見交換を行うと共に、地域資源の活用が出来るように努めています。拘束についての考え方などもお話しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と家族、町内会役員、民生委員、区役所と地域包括支援センターの職員の参加を得て、2か月毎に開催している。 ・会議では、運営状況や「身体拘束等適正化の対策検討委員会」の説明を行い、メンバーから意見や要望を得ている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やブロック会議等にて担当者から連絡を受けたり、取り組みなどの報告を行っている。生活保護の方が数名おられるため、区役所の方とは連絡を取り合っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・区やグループホーム連絡会主催の研修に参加している。 ・区ブロック会議で、担当者と意見交換を行なう協力関係にある。 ・区生活保護担当者とは、必要に応じて連携を図っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に勉強会を行い、理解を深め職員間で情報共有しています。見守りなどを徹底し、行わないケアの実践に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を、正しく理解しているか」などの研修を、定期的に行い身体拘束排除の意識を高め、情報を共有している。 ・職員同士で常に声をかけ合って、身体拘束防止に努めている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に勉強会を行い、直接的だけでなく間接的な虐待も見過ごさないよう、職員同士常に声を掛け合いながら防止に努めています。言葉の暴力を含めスタッフ同士で注意しあうように指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在制度を活用してるため、職員一人一人が理解出来る様、今後も継続的に取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時や、契約の際には必ずご家族様には説明を行っている。また、不安や疑問が生じた際には、その都度説明を行えるように体制を整えている。本契約時には説明と同意のもとにご納得頂き契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、定期的にお手紙やお電話、来訪時に近況報告を行っています。その際ご意見・ご要望を伺い、職員間で情報を共有し、日々の支援に反映できるよう努めています。ケアプランの説明時にはご家族様に必ず要望をお聞きしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見は、日常接している中で把握している。家族の意見は、来訪時や手紙、電話連絡の際に聞いている。 ・把握した内容は、会議で話し合い情報を共有し、運営に反映している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員より意見や提案などを聞く機会を設け、会議などで話し合い職務に反映させています。また、管理者は定期的に職員との面談を行っている。	・管理者は、職員の気付きを大切に、業務を共に行う中で日常的に意見聞いている。毎朝の申し送りや申し送りノートで意見を共有している。提案の多くは、ケアの改善策で会議で話し合い、職務に反映して働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・実績・勤務状況を把握しているとは思いますが、給料水準の明確な評価基準がありません。不平不満がある際には、話しやすいよう業務中だけでなく、休憩時間などを利用し、積極的に聞くように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に介助方法等の施設内研修を行っています。また外部研修を受けた際には、その情報等を職員全体が共有し反映出来るように機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に交換研修を行い、他ホームと情報交換を行ったり、ブロック会議などに参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様やご本人様から要望・意見などを集めアセスメントを行っています。利用者様との関りを大切にし、1日でも早く慣れて頂けるよう、安心して生活して頂けるような関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはしっかりと説明を行う。また入居後は、来訪時やお電話、ケアカンファレンス等にてご家族様とコミュニケーション取り、安心して頂けるような関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様から要望等をお聞きし、今現在必要なサービスに対し、職員間で共有し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者様が行える事を見極め、家事を通じて立場にとられない関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連携を図りながら、共に支えていける関係を築けるよう努めています。また、毎月近況をお知らせするお手紙を送付しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族様から情報収集を行い、慎重に対応するように努めています。馴染みの方や場所との関係が途切れないう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の家族や知人が来所した際、湯茶を出しくつろいで対話ができるように配慮している。 ・家族の協力でお墓参りや外出に行く利用者もいる。 ・電話や手紙での連絡を取り持ち、関係の継続を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や関係性を把握し、職員が間に入りながら、レクリエーションを通して円満な関係が保てるよう支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係を大事にし、いつでも相談・支援が出来るような関係作りに努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位の理念の元、利用者様にとって、どのような事が望ましいのかを考え、利用者様・ご家族様の希望・意向に沿えるよう努めています。	・利用者との関りを多く持ち、会話や行動から思いや意向の把握に努めている。 ・意思疎通が不確かな場合は、職員全体で話し合い、家族や関係者から情報を得て利用者の視点に立ち、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・ご家族様にお聞きし、今までの暮らし方や生活環境、入居に至る経緯などを、会議の際に職員へ説明を行い、理解を深めるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録して把握をし、ケース・業務日誌や連絡ノート、申し送り時などから、現状の心身状態・特変事項等の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやフロー会議を行い、職員の意見や提案事項を聞き話し合い、状況把握に努めています。また、カンファレンスにてご家族様からも意見などをお聞きし、介護計画に反映させています。	・入居時にアセスメントを行い、利用者、家族と話し合い暫定プランを作成している。 ・約1か月後にモニタリングし、本人と家族の意向を確認後、医療関係者と話し合い、ケアカンファレンスにて、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り・連絡ノートを活用し、情報を共有しながら業務を進めております。情報交換し、その都度介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況・状態に合わせ、多角的なケアが行えるよう職員間で情報の共有をし、利用者様の日々の変化を把握し、必要に応じて訪問マッサージや通院の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに合った地域資源を見極め、それらを活用することで、安全で豊かな暮らしが送れるよう支援しています。(町内会など)		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・皮膚科の往診にて、利用者様の健康状態を報告していません。特変時にはその都度往診医に連絡をしています。利用者様・ご家族様のご希望があれば、入居前のかかりつけ医など、他の医療機関を受診出来るよう支援しています。	・入居時に利用者、家族に希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。現在は利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医として、月に2回の訪問診療を受けている。希望により歯科、皮膚科の訪問診療もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、日々の健康状態を報告しています。特変時には往診医に報告し、適切な処置をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、面会や電話連絡し、病院関係者やご家族様と情報交換や相談を行い、早期に退院出来るように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針については、事前に往診医・ご家族様・職員間で話し合い、利用者様にとってより良い場所などを検討しています。	・入居時に、重度化や終末期の事業所の方針を伝えている。利用者の身体状況に応じて往診医、家族、職員間で話し合い、往診医の対応できる状況にて、最善を尽くすことを伝えている。職員はユニット会議で終末期の支援のあり方について、検討している。	・引き続き重度化や終末期のあり方を検討され、協力医や訪問看護師、職員、家族の連携のもと、利用者支援に取り組まれることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを職員室に掲示すると共に、定期的に勉強会を行ったり、職員間で情報の共有をし、対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	迅速に対応出来るよう、定期的に職員・利用者様も交えての避難訓練を行い、避難経路等の確認を行っている。また、地域消防署より避難経路の確認や指導、隣の棟や近隣の方との協力体制を整えている。	・年2回消防署に届けて、日勤帯と夜間の避難訓練を実施している。訓練には地域の消防団と近隣住民の協力がある。さらに毎月、職員の意識化を図るため、シミュレーション訓練を実施している。 ・倉庫と各ユニットに非常用食料と飲料水を十分に確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの自尊心を傷付けないよう、常に尊敬の念を持ち、傾聴や言葉掛けの際にはじゅうぶん注意をし、対応に当たっています。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念「利用者本位」の基、職員は毎朝、行動指針の「蘭寿クルド」を唱和し、利用者の人格を尊重することを意識化している。 ・不適切な言葉かけや対応があった場合、管理者はその場で注意している。職員同士も注意しあう関係にある。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや何を希望されているのか、自己決定出来るよう、その様な場を増やしていけるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の目線・立場になり考え、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様やご家族様にお聞きし、一人ひとりに合った身だしなみやお洒落が出来る様に支援している。2カ月に1度訪問理美容の支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じて頂けるよう毎月行事を行ったり、旬の食材を使った食事やおやつを取り入れています。また、無理のない範囲で準備や後片付けをして頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材や行事食で、季節感を味わい、食事を楽しめる工夫をしている。水曜日を自主メニューの日とし、利用者はチラシを見ながら好きな献立を尋ねたり、誕生日に合わせて希望を聞いている。 ・利用者は、テーブル拭きや食器拭きなどを手伝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量などを記録し確認する事で体調の変化に気を付け、利用者様一人ひとりに合った適切な量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行って頂いています。ご自分で出来ないところに関してはお手伝いをさせて頂き、希望の方が居る際には歯科往診の支援もしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	業務日誌に記載し、一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い、出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の排泄パターンを把握し、さり気なく声をかけてトイレに誘導している。 病院でおむつを使用していた方が、退院後リハパンに変えて、トイレでの排泄に改善した例がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操や散歩を行い、身体を動かす機会を設けています。また乳製品やオリゴ糖などを摂取しています。往診医と相談し薬の調整を行い、個々に応じた予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や状況に応じて、出来る限り希望に沿うよう対応しています。体調にはじゅうぶん気を付け、ゆっくりと入って頂けるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> 体調を確認の上、週に2～3回の入浴を基本に、好みの湯加減で、ゆっくりくつろげるように配慮している。 季節に合わせて、ゆず湯などを楽しめるようにしている。 職員と1対1でリラックスした時間となるよう支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムに合わせ、安心して気持ち良く寝て頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には必ず2人で確認しながら行っています。服薬後、状態に変化がないか注意しています。変化があった際には、往診医に報告し指示を受けています。常に最新の服薬内容を把握できるよう、薬説ファイルを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様・ご家族様にお好きなこと・希望をお聞きし、少しでも張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ、買い物等の支援を行っています。お墓参りなどは、ご家族様にも協力していただいています。	・暖かく天気の良い日は、毎日近隣を散歩したり、日当たりの良い玄関前で日向ぼっこを楽しんでいる。散歩コースの畑で、採れた野菜や花をいただくこともある。 ・車で外食や遠くの公園に出かけたり、買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人での管理はトラブルの原因になるので、事務所にてお預かりしていますが、その都度外出に必要な分をお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の際にはご家族様に連絡し、いつでも電話を掛けれるように支援をしています。手紙のやり取りに関しても、常時行えるようにしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓掃除を行い、清潔な空間であるように心がけています。廊下やリビングの壁には、季節の飾りつけや行事の写真などを貼りだし、居心地よく過ごして頂けるように努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除好きな利用者と一緒に清掃を行っている。清潔な共有空間には全員が集えるテーブルと椅子を備え、片隅にはゆったりくつろげるソファのコーナーを設けている。 ・廊下の壁面には、利用者と職員が共同制作した季節の飾りつけをして、居心地よく過ごせるように工夫している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、一人もしくは気の合った利用者様同士で利用頂いています。場合によっては職員が間に入り込んで会話をするなどし、少しでも居心地のよい空間になるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ環境が変わらないよう、以前から使用していたものを取り入れ、居心地よく過ごして頂けるよう努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、ベットやテーブル、椅子、テレビなどを持ち込み、花瓶には生花を掛け、写真や手作りの作品を展示して、本人が居心地よく過ごせるように配慮している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど、出来ることはお手伝いをして頂き、自立した生活が送れるよう支援しています。		

事業所名	グループホーム蘭寿おりもと
ユニット名	あけぼの

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解しているか、職員・管理者と常に確認しあいながら、利用者様に寄り添える様、努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の獅子舞・盆踊りに参加したり、お散歩に出かけた時には、近隣の方々とのコミュニケーションを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置・こども100番の登録などを通して、地域の方々との繋がりを大切にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、日々の活動状況の報告や、地域の方からの要望や、行事の日程をお聞きして、ご利用者様へのサービスに役立てている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等では、ケアサービスの取組みを積極的に伝えている。また、区役所の担当者の方へ、実情を詳しく説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	些細な言葉掛けも、暴言・暴力に繋がる事を日頃から認識出来る様に、会議で話し合いを行い、全員が意識し、注意している。また、施錠をせず見守りを強化している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や着替えの時に細かく身体状態を確認し、見過ごす事のない様に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の時等に、細かな仕組みなどが理解できる様に、積極的に学べる機会を設けて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が入居前に詳しくお話している。また、訪問時には職員が良くお話を聞く様にしており、疑問や不安な事がないか、聞き取りを常に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時されるご家族様へは、その時にご意見を伺い、長期間訪問のないご家族様へは、定期的に電話で近況報告を行いながら、ご要望がないか確認している。ご要望やご意見は、直ぐに改善出来る様に務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、朝晩の申し送りなどの時間や、休憩時間なども使い、積極的に意見を聞く時間を設けている。提案などがあれば、直ぐに反映出来るかどうか、話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が職務に向上心を持つ様、管理者が代表へ日々の現状を報告している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加出来る機会を整えている。管理者は常にフロア内を細かく見ており、職員の力量を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に交換研修にて、他事業所の活動を学ばせて頂き、サービスの向上に役立出ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは、積極的な関りを多く持ち、不安な事がないか話しやすい関係が築ける様に努力している。また、ご家族様からも、ご本人様の今迄の生活環境など何う様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してから暫くは、ご家族様が不安のない様に、細かく現状を報告している。要望があれば、直ぐに反映できる様に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様から、細かく要望を聞き取り、必要な支援がされているか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、炊事・洗濯などの中から、積極的にお手伝いして頂き、自立した生活が送れる様に支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月末には、ご家族様へ職員全員がコメントを書いたお手紙を送付し、ご本人様の今の状態が詳しく理解頂ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の支援を借りながら、ご本人様がこれまで大切にされてきた関係が保てる様に、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者様の性格を細かく把握し、円満で楽しくご利用者様同士が関われる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談して頂ける様に、退去後も今迄の関係性を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様から、可能な限りご意見やご希望をお聞きし、難しい様であれば、ご本人様を一番良く理解されているご家族様からのご意見をお聞きしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や、ご家族様から今までの暮らしの状態をお聞きし、これからのサービスに役立てて行ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の細かな様子は、業務日誌やケース記録へ入力したり、申し送りノートを活用して、全職員がお一人お一人の細かな心身状態を把握出来るように、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・ケアカンファレンスの実施により、ご家族様と職員で、ご本人様の現状に適したサービスが行われているか確認しながら、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝晩の申し送りや、業務日誌・申し送りノートへの記入など細かく行い、介護計画書の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様とご家族様の状態を良く見極め、ご本人様が必要とされる通院などの支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様やご家族様からご意見があった場合には、ご本人様の生活が豊かな物になる様、支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の内科往診・毎週火曜日の訪問看護や、定期的な皮膚科・歯科の往診があり、現状にあった適切な医療が受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日の訪問看護で、お身体の状態を報告し、必要であれば、直ぐにかかりつけ医の往診が受けられる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医が医療機関との連携を取って下さり、ご本人様が早期に退院できる様に、ご家族様や各医療機関との情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、入居契約時より、ご家族様へ十分な説明を行っている。重度化へ移行した場合には、医師よりケアカンファレンスが行われる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがあり、緊急時に対応できる様、定期的な確認を職員間で行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、全職員が避難訓練を行い、緊急時の対応が迅速に行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心が傷つかない様に、細心の注意を払いながら対応をする様に心掛けている。また、プライバシーの配慮も忘れない様に、声掛けを行い、確認しながらの対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉掛けを、工夫しながらご本人様の希望を尊重した結果が出せる様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自己都合になっていないか、常に確認しながら、ご利用者様本位の支援が出来る様に務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の訪問もあり、ご本人様の好みや、ご家族様のご意見を伺いながら、その方にあった身だしなみが出来る様に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通年行事を取り入れ、季節ごとの旬な物を取り入れた食事や、おやつで召し上がれる様にしている。食事の片付けは毎回、ご利用者様にもお手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌には、食事の摂取量や、水分量が細かく記載出来る様になっており、お身体の状態に合わせた適切な量を提供出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをスムーズな流れで行って頂ける様に、ご利用者様に応じた声掛けを工夫したり、必要に応じて歯科往診を受けて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人様の排泄状況を見極め、適切なタイミングで声掛け、誘導が行える様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人に合わせた水分量や食事量が摂れているのか見極め、便秘になる前に予防も含め、オリゴ糖やヨーグルト等を摂り入れて、なるべく自然な排泄が出来る様、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人様の体調を確認し、ご希望があれば添える様に支援を行っている。職員都合にならない様に気を配っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換を行っている。また、毎日リネンの清潔状況を確認し、気分良く安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の準備には、必ず複数の職員が携わり、お薬に間違いがないか確認している。薬説は直ぐに目を通せる様になっており、お薬の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に張り合いが持てる様、それぞれの趣味や趣向を取り入れながら、気分転換が行える様に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩や外気浴は職員が支援していますが、ご本人様が希望される場所へは、ご家族様にもお願いし、出掛けられる様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望者様にはご家族様同意の元、事務所にてお預かりし、ご本人様の希望に応じて使って頂ける様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様同意の元、ご希望者様には携帯電話の持ち込みも支援している。必要であれば、お手紙は職員がお預かりし、投函して自由にやり取りが出来るようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの各箇所には、それぞれ季節に応じた飾りつけを行い、居心地良く過ごして頂ける工夫を行っている。また、不快になる様な光や音、色味は避ける様な工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様同士、自由に過ごせる様に、身の回りの環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの物を多く取り入れ、好みの物が身の回りにある安心感を感じて生活して頂ける様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の出来る事、分かる事を理解した上で、お手伝いなどして頂きながら、安全に自立した生活が送れる様に支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム蘭寿おりもと

作成日 平成31年3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	現時点で危険な状況になったことがないため、職員の危機意識が薄い。壁で囲まれていないため、不審者の侵入はかえって目立つため、安心しきっている。	不審者防犯対策：施錠はもとより、防犯ベル、防犯センサー、コンビニカラーボールなど、何らかの対策を検討していく。また、職員にいつ何が起こるかわからないため、研修などでシュミレーションを行い、実践につなげていく。	月1回のフロア会議にて、職員一人一人に危機意識を持たせるような場面を想定し、シュミレーションを行い、実践につなげていく。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。